

栄光

説教

『恐れる私たちの真ん中に立つキリスト』

イザヤ書65章17節～20節

ヨハネによる福音書20章19節～23節

岸 俊彦

説教……………1
特集・地球のためにできること……2
受難週祈禱会
①マタイ26・1～56…5
②マタイ26・57～75…6
③マタイ27・1～66…6
伝道師の書き込み…7
牧師の書斎から…7
長老のファイル…8

キリストが十字架に磔になった後、弟子たちはユダヤ人を恐れて、家の戸に鍵をかけて閉じこもっていました。

その日（日曜日）の朝、マグダラのマリアに復活の主が現れてくださいました。「わたしは主を見ました」と、隠れていた弟子たちに彼女は告げました。弟子たちは信じることでませんでした。

最初の弟子たちの有様は、ユダヤ戦争（紀元66～70年）後のヨハネの教会の有様でした。敗北したユダヤ教側は再建のため結束を強め、キリストの教会とその信徒を呪い、捕らえ、駆逐しようとした。ヨハネの教会もユダヤ人を恐れ、閉じこもっていました。今の私たちはどうでしょう。この現代文明の世の中であるのにも

かわらず、ウイルスの脅威に怯えています。温暖化をはじめ人類による地球環境の汚染は、日に日に深刻化しています。

恐れて閉じこもる弟子たちの真ん中に、復活のキリストが立つてくださいました。十字架に磔になった釘跡のある手と、槍で突かれた脇腹を見せて、「あなたがたに平和（平安）があるように」と挨拶してくださいました。手と脇腹の跡は、弟子たちがキリストを見捨てて逃げ去った彼らの罪深さの跡です。槍で突かれたキリストの脇腹から、血と水が流れ出た（19・34）とヨハネは伝えています。永遠の命にいたる命の水です。弟子たちの罪を赦し、死と恐れから救い、真の命を与える聖霊です。その日の朝、キリストの納めら

れた墓は空っぽでした。しかし、弟子たちはまるで墓の中にいるようなものでした。ユダヤ人を恐れ、キリストを裏切った罪を悔い、自らの弱さを嘆き、罪と死の墓穴に入っているようなものでした。かつてキリストは語ってくださいました。「驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出て来るのだ」（5・28、29）。今や、弟子たちはキリスト（人の子）の声を聞きました。「平安（シャローム）があなたがたにあるように」。復活のキリストの言葉を聞いて、キリストをお遣わしになった方を信じる者は永遠の命を得、また裁かれることなく死から命へと移るのです。「はつきり言っておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である」（5・25）。「わたしは、平安をあなたがたに残し、わたしの平安を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」（14・27）。「これらのことを話し

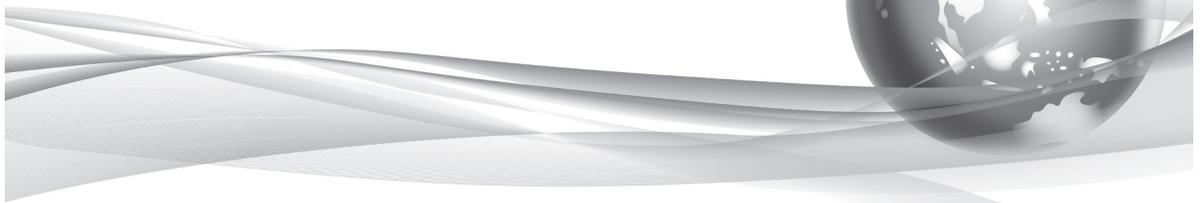
たのは、あなたがたがわたしによって平安を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」（16・33）

多くの罪人（ユダヤ人であり、弟子たちであり、私たち）が、キリストを十字架に磔にしました。しかし、キリストは自ら苦い杯を飲み干し、十字架を引き受けてくださいました（18・4～8）。罪と死から私たちを救い出すためです。赦すためです。土塊に過ぎない私たちに新しい命を与え、使命を与え、私たちが生かしてくださいました。私たちが苦難の中にあっても耐え、喜び、祈り、感謝するためです。

土塊から創られた人は、神の息を吹き込まれて生きる者となりました。まるで墓の中に閉じこもったように死んだも同然の弟子たちに、復活されたキリストが息を吹きかけてくださいました。「聖霊を受けよ」と。罪と死から、不安と恐れから、キリストが救い出してくださいます。私たちは復活のキリストを信じて命を得、まことの平安を与えられるのです。

地球のためにできること

最近「SDGs (エスディーゼズ)」という言葉を見聞きするようになりました。
国連で開かれたサミットの中で、世界のリーダーによって決められた国際社会の共通目標で Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称です。
すべての人が尊重される世界にするために
経済・環境・社会の問題を解決していこうというもの。
やさしくいうと、「地球上に住むみんな」がどうしたら幸せになれるか、を考えることです。
神様がご覧になって「良し」とされたこの世界を取り戻すには
まずは私たち1人ひとりの日頃の心がけから。
できることは何でしょうか。



SDGs実現、 それは第一歩かも

真下健人

「SDGs」は、煌びやかな17色の短冊がリング状になっている綺麗なロゴが目印で、邦訳は「持続可能な開発目標」。17の目標と169の課題からなっています。昨年、上智大学で開催された「教皇フランシスコ訪日特別記念シンポジウム」で「キリスト教とSDGs」として取り上げられました。宗教の世界でもそれぞれに取組みが始まっているようです。

ちなみに、SDGsの目標とは、全世界の人が国境や宗教や人種などを超えて協力しあい、誰もが幸せな未来を過ごせる社会を構築し、世界の平和と生命があふれる地球環境を守ることを実現するための取組みです。SDGsが目標とする世界をあらためて考えてみると、神様が良しとなさる世界への第一歩のような気がします。では、僕らは何が出来るのでし

ようか。実は最近、会社でこう説明しました。参考になれば。

境遇も、育った文化的背景も、価値観すらも異なる世界中のさまざまな人々に、隣人を愛するように敬意を払い、みんなが幸せな世界を実現するために、知恵を尽くし、想いを尽くし、それぞれが自らの意識の枠組みを抜けて少しだけ変えて、まずは行動すること！「行動変容」、ただそれだけです。

「？」ですよね。では、具体的には？

SDGs 169の課題をジックリ読み込んでくださいなんて言いません。経済活動自粛により、いつもより澄み切った青空に向かいまします。大きく伸びをします。ワーツと大声で叫んでストレスを抜きまします。スッキリしたら、「こうしたら良いのにと常々思っているけれど、面倒で行っていないことの中で一番簡単なことをやるぞー」と決めます。あとは周りに(できれば)宣言して、日々実行します。ただそれだけです。それだけです。けど、それで世界は変わります。だってそれ、SDGsの169の課題に必ずつながっていますから。

環境問題オタクの私から 皆さんへ

恵 佐藤

で環境を守るために行動している
う」と考えたのでした。

ある意味正しかったかもしれない
せん。人間の経済活動が静まった
今、大気汚染は改善し、ヴェネチ
アの運河は透き通って、イルカが
現れたと伝えられたほどのです。

高知へ移住したのも原発事故が
きっかけでした。あれほど安全な
エネルギーだと言い張っていた原
子力は何世代にも渡って地球を
生き物たちを汚染し続けます。

人間とはいかに傲慢な生き物
か。私たちは深く反省し、行動に
起こすべきです。

ちなみに最近のマイブームは
「プラスチックフリー生活」。同名
本の訳者が移住仲間でもあり、影
響を受けています。エコバッグは
当然、タッパーや使い捨て容器の
代わりに竹製品やガラス瓶を使っ
て、無理なく生活を変えられます。
蜜蝋ラップもかわいい柄があつて
楽しいですよ。

皆さんもまず1つ、プラスチッ
ク製品の使用を減らしてみたい
かがでしょうか。

持続可能な社会

加藤玲奈

私は、新型コロナウイルスによ
る自粛要請が出てから、殆どの時
間を家で過ごしています。幸い、
ピアノは練習できるので、毎日音
楽に救われています。ただ、体を
動かすことも必要で、買い物つい
でに世田谷区内の緑道、公園など
を散歩します。

働き方がテレワークや時短勤務
に切り替わっていることもあり、
公園や緑道では、子ども連れの家
族やジョギングする人を多く見か
けます。世田谷区もしくは、都内
の人の数に対して、皆がくつろげ
る公園や緑地などが少ないのでは
ないかと感じています。これから
の社会では、非常事態でなくても、
家や家の近くでゆったりと過ごす
ことができる町づくりが必要とさ
れるのではないのでしょうか。また、
都市であつても身近な環境で自然
と触れ合い、自宅の庭や地域で、
野菜を自給自足することが出来た

ら、持続可能な社会に近づくかも
しれません。特に子供たちは、野
菜や果物を育て、収穫することで、
自然環境や食への関心が高まるで
しょう。

世界中で毎年のように起こる自
然災害や、今回のような感染症の
広がりは、世界共通の問題として
取り組まなければならないのは明
らかです。一方、持続可能な社会
の実現には、地域の力も重要だ
と思います。身近な環境から世界へ
関心が広がり、世界の人々と協力
することで、より良い地球環境へ
の道筋を見出すことも出来ると思
います。

既存の価値観が壊され、自分の
価値観を見直すことを余儀なくさ
れている中で、これから何を大切
にして生きていきたいのかを考え
ざるを得なくなりました。持続可
能な社会のために今こそ、価値観
の変容が必要でしょう。但し、私
たちは神様を信じるという信仰だ
けは変わりません。今もこの後の
世界でも、神様の愛が全ての人々
に与えられているという事実だけ
は永遠に変わらないものです。

初穂会時代、私はちょっととした
環境問題オタクでした。フロンガ
スや合成洗剤、化学調味料を批判
し…思春期の思い込みは激しく、
思い出すと恥ずかしいです。そ
して至った結論は「地球の為に
は、人間がいなくなるのが一番良
い!」。

これには当然自分も含まれてい
るわけで、「でも私は生きていき
たい。じゃあ、自分ができる範囲

農民から見た、世界と環境

会津坂下教会 堀 献一

農業を営む我が家は、1ヶ月後の田植えに向け、畔塗り、種まき、苗代作業をしています。記録的暖冬・少雪だったので、少し覚悟はしていたのですが、やはり全く安定しない春の天候で仕事は5日以上遅れ、先が案じられますが、晴れの周期に入ること待ちつつ、今年もまた、農民は明日は未定の今日の仕事に向かいます。牛を飼う水田を耕す、有畜複合循環経営。稲藁と畔草・自家牧草を牛に与え、粉殻を牛床に敷き、その厩堆肥を水田に還元し飼料と肥料の自給率を高め、全く農業・化学肥料を使わないJAS有機米と、農業は除草剤1回だけ使用し化学肥料成分は5%以下に止めた特別栽培米、皆さんご承知の通りです。

人間が一層の豊かさを求め、芸術・文化、科学・技術を探究・進歩させようとする事は、性でもあり、その事自体は否定できない事ですが、その行為の不完全さ故に地球環境に及ぼしている影響を至る所に実感し、今手を尽くさねば回復できないと騒ぎたっているのが現状です。本来地球に備わっている循環・浄化力を「開発」という名の下に激減させ、直接実害を被らせてきた公害(企業犯罪)はある程度クリアしたとはいえ、CO₂等の温暖化物質の排出により「母なる地球」は現存生物(人間、動植物)にとって生存の持続(永続)可能性を脅かすほどになり、その危機感から、15年に「国連持続可能な開発サミット」の場で17の「SDGs(持続可能な開発目標)」が16~30年までの国際目標として採択されました。

そんな中、皆さんには馴染みがないかと思いますが、農民である私に関係する事としては、「国際協同組合年(12年)」、「国際家族農業年(14年)」、「国際土壌年(15年)」、「家族農業の10年(19~28年)」等が次々と定められました。しかし、ICT、AI、5G等の先端産業の成長・発展を第一とするG7等先進大国はそのような事は意に介さず、自国の企業の利益が最優先、そして更なる成長率のアップに心血を注いでいます。人類生存(存在)とその持続性の基盤として採択したSDGsの大切な気付き・潮流は変えてはならず本流とし、逆流を阻止せねばなりません。17の目標とは、「貧困、飢餓、健康・福祉、教育、ジェンダー平等、安全な水・トイレ、クリーンエネルギーを皆に、働きたいと経済成長、産業・技術革新、人・国の平等、住み続けられる街づくり、作る責任・使う責任、具体的な気候変動対策、豊かな海の保護、豊かな陸の保護、全ての人に平和と公正を、パートナーシップで目標達成」の17です。基本的な当然の事が大切にされない世界・社会の現実、人間の永遠の課題に具体的にどう取り組むか、環境保全と経済成長の両立の可能性、規制・制限撤廃の経済競争と貧困。難しくもあり、本当は簡単に解決できる事でもある人類の根本テーマです。経済の「落」には愛があり、必要と思うのですが。

年の始めに多くの人々が「無病息災・家内安全、商売繁盛」を祈願したはずなのに、今は予期せぬ「国家非常事態宣言」、パンデミック状態。微細なウイルスにより人間が築き扱ってきた世界の機軸・根本としているものの殆どが機能出来ず、その脆弱さを露呈してしまっています。可能な感染防止策(外出制限、マスク、消毒等)で拡散に対処し、早急な治療薬・ワクチンの開発と沈静化・終息を待ち、回復の時が訪れたら以前の生活に、否それ以上に活発にしたいのでは? 果たしてそれが我々の目指す再興、それでいいのでしょうか? 必要・大切なものは多くはなく、生かされているのはなく、生かされていることを噛みしめ自覚し、あらためて感謝を持って日々を歩まねばと思わされ、人間の立ち返りを神は求めておられることを感じ、示されているこの頃です。

皆様の上に主の守り、平安をお祈り致します。

丁寧に暮らす

沢田寛子

三重県鈴鹿市の椿大神社のそばに、「椿茶園」という、お茶農家が営む日本茶カフェがあります。WH AIS (ワイズ) という、女性建築家プロジェクトのメンバーの一人が店舗設計をし、私の勤務先ではお店のロゴマーク、お茶袋、包装紙やメニューなどのグラフィックスを担当しました。

オープン前から店主の市川晃さんには幾つかのこだわりがありました。お茶Barカウンターを設け、注文後に一煎ずつ丁寧に淹れて出したい。提供するの紙コップではなく、椿茶園特製の陶磁器カップにしたい。この陶磁器カップは、お土産としてそのまま持ち帰ることもでき、コレクションにしている方も多く聞きました。

WH AISには「和つ茶プロジェクト」というものがあります。「日本茶は美味しい！」というシンプルなお茶から始めました。

「急須でお茶を淹れて、湯飲みで飲むという日本の文化を伝えて残していきたい」という考えをベースに、建築家の人たちと一緒にこれまで色々なイベントやセミナーを行ってきました。

今私たちが取り組んでいるのは、企業、事務所や施設などの会議の場で提供する「会議用のお茶セット」のあり方についてです。会議に出席すると、テーブルの上に置いてあるのはペットボトルのお水かお茶。これは全くエコではない。「何とかしたい!」と、これまでシンプルなお茶から始めました。少人数用、大人数用に仕様を分けた「会議セット」を作るのはどう? 収納や見せ方はどうする? と今まさに進行中です。その中心メンバーには椿茶園の市川さん父子も入っています。

SDGsって、なんだか難しいことのように感じますか? でも、簡単にペットボトルのお茶を買うのではなく、一杯のお茶を急須で丁寧に入れるのは、私たちに豊かな時間を与え、これから先の地球のことも考えることが出来るのかなと思っています。

受難週祈禱会

① マタイ26・1〜56

マタイ26章1〜56節のはじめには、祭司長たちと民の長老たちが主イエスを殺害する計画を立てたことが書いてあります。そして、この26章冒頭で立てられた計画がいよいよ実行に移され、主イエスが逮捕されるのが同じく26章の47〜56節です。その間には主イエスと弟子たちとの最後のやりとりが描かれています。

主イエスが十字架につけられることは他ならぬ神様のご計画でした。この計画のことについて知り、そして備えることができたのは、ただ主イエスお一人でした。弟子たちは確かに主イエスからその死について聞かされていましたが、それを理解することはできませんでした。弟子たちだけではありません、主イエスを殺そうとした祭司長や律法学者たちもまた、神の計画を知りません。人の目から見れば彼らが主導して主イエスを十字架につけたように見えるのですが、彼らの思い通りに事は運びま

せんでした。祭司長や律法学者たちは過越祭のうちに主イエスを十字架につけるつもりはありませんでした。人がたくさん集まるお祭りの日です。民衆に人気だった主イエスを殺すとなれば、暴動が起こってもおかしくない。しかし結果的に彼らの望む形とは全く違う仕方、祭りのただ中に、過越の羊として主イエスは死なれたのです。彼らは重要な役者であっても、神の計画を超えることはできません。

主イエスのみがこの神の計画に生きるのです。最後の時まで弟子たちに自らの死について教え、また神の計画に対して直接対決します。主イエスはゲツセマネにおいて祈る中で、こうおっしゃいます。「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように」。人の目から見れば、主イエスは祭司長や律法学者の計画によつて死んだように見えます。しかしそうではなく、主イエスの十字架は他ならぬ神の計画であり、神の決断の物語なのです。

(狩野進之佑)

② マタイ26・57〜75

律法学者たちと長老たちと祭司長たちは、キリスト逮捕から裁判、十字架刑まで用意周到に準備していました。真夜中、大祭司カイアファの屋敷に集まり、キリストを裁判にかけました。二人の者が「この男は、『神の神殿を打ち倒し、三日あれば建てる』ことができると言いました。大祭司は「お前は神の子、メシアなのか」と問いました。キリストは「人の子」について語りました。激昂して服を裂きながら「神を冒瀆した」と大祭司は断言しました。

無力なキリストに対して、ある者は顔に唾を吐きかけ、こぶしで殴り、ある者は平手で打ちました。「メシア、お前を殴ったのはだれか。言い当てる」とあざ笑いました。無力な者を前に威勢の良いののは、自分の弱さを隠すためでしょうか。

もう一人、そこには弱さをもった罪人がいました。一番弟子ペトロです。「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して

申しません」と最後の晩餐の席で言ったペトロです。「遠く離れて」キリストに従っている姿が伝えられます。「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」。女中に問われると否定し、退きます。別の女中と同じ問いを繰り返しました。更に退くペトロに人々の目が集まりました。「確かに、お前もあの連中の仲間だ。言葉遣いで分かる」。

「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言っだろう」。このキリストの言葉が実現しました。ペトロはこの言葉を思い出し、外に出て、激しく泣きました。

人生を変える一言があります。生きて働くキリストの言葉は、この時ペトロの人生を変えました。「神の神殿を打ち倒し、三日あれば建てる」ことができる」と語ってくださいましたキリストは、死者の中から甦り、私たちが悔い改めに導き、私たちを立て直してくださいます。私たちは、キリストによる神の神殿であり、神の霊が私たちの中に住んでいることを知らなければなりません。(岸 俊彦)

③ マタイ27・1〜66

主イエスはあらかじめご自分の復活を知っておられた。ご自身の死と復活については群衆に向かつて度々に語ってきた。そのため、27章の最後の部分65節以下には主イエスを十字架につけた人々はこの主イエスの言葉を警戒して、墓に見張りをつけていたという。

しかし、こうして主イエスがご自身の復活を知っておられたということは、十字架の出来事を筋書き通りの茶番にするものではない。むしろ主イエスご自身は深い絶望をもって十字架上で死なれたとマタイは証言する。

27章の言葉には絶望が渦巻いている。ユダが自らの罪に絶望して命を絶つ物語にはじまり、主イエスの身に降りかかる出来事——群衆たちの裏切り、兵士たちの侮辱、人々の嘲笑、十字架につけられた犯罪者たちの罵り——が、主イエスを深い絶望に向かわせる。そして何より深い絶望は、十字架の上の主イエスの言葉に表れるように、神から見捨てられる絶望である。「わが神、わが神、なぜ

わたしをお見捨てになったのですか」(46節)。主イエスの死は復活の希望に満ちたものではなく、神に見捨てられた者としての絶望的な死なのである。

この主イエスの絶望的な死がどういうものなのか、私たちには明らかには述べることができない。色々な推論を述べることはできるけれども、確かなことは一つである。この絶望的な死こそが、本当は私たちの死であったということである。ユダのように罪の絶望の中で、キリストのように神に捨てられた絶望的な死を迎えるのが私たちだったということである。

この死を代わりに主イエスが死なれた故に、私たちは復活の希望に生きている。52節に聖なる者たちの復活が描かれる。読んでみるとわかるが、時系列から言えば無茶なものである。しかし、この復活の出来事を、あえてマタイは主イエスの死の直後に記している。主イエスの死は私たちの復活に他ならないからである。

(狩野進之佑)

伝道師の書き込み

新型コロナウイルスの拡大に伴って教会も諸集会を中止し、日曜日の礼拝は近隣で来られる方のみで守るようになり、もう1ヶ月が経ちました。週報に人数を記載しているとおりですが、4月はおよそ40〜50人程度で礼拝を守っています。礼拝後は最低限必要な会議だけ短時間で終わらせ、それぞれ帰路についている、というような状況です。

牧師の書斎から



新型コロナウイルス感染拡大は、ますます危機的です。主日礼拝以外全ての集会は原則休止しています。だからといって時間的に余裕ができるかというと、必ずしもそうではありません。主日礼拝を守るために、以前と同じように準備をしなければなりません。週報も作らなければなりません。その他色々あります。

出席出来ない方のために、急で

情けない話ですけれども、伝道師という立場上、こうした有事の際の決断を下す必要がないことと、ありがたく感じます。特に、状況が大きく動いた3月、4月以来、どういうふうにも目の前の事態について考えるべきか、具体的に自分ならばどの時点で、どういう判断を下せたのだろうかという判断を得ませんでした。私と同じ年度に神学校を出た人たちの中にも、その教会に1人だけの教師として、主任教師として、派遣された人がいます。もし自分がそういう立場

ですがライブ配信を始めました。初めの2回は成功しました。さらに音声、画質を良くしようと取り組んだら、その後2回続けて失敗しました。あり合わせの機材では限界がありました。「ええカッコせず」最初に戻つてと、土曜日に狩野伝道師と十分準備、確認したのですが日曜日は失敗しました。牧師館の2階と礼拝堂を無線で繋いでいました。礼拝後改めて調べてみると、牧師館2階のケーブルが抜けていました。まさかそこが抜けているとは思いません、確認し

だったとしたら、どうも自分できっちり考えて判断が下せたとはいえませんが、だから、情けないながらも伝道師として派遣されたことにはありがたいことでした。私個人としてはこの度のコロナウイルスの感染拡大は、与えられた必要な準備でもあるのかもしれませんが、状況は変化するものですが、どうやらこのままだと今年1年、あるいはそれ以上に、私たちはこの疫病と向き合っていかなければならないようです。残念ながら教会には病を癒やす奇跡の力は備わっ

なかったのが失敗のもとでした。ネットでライブ配信はできませんでしたが、録画していました。少し時間をかけてダウンロードしてくださった教会員が見てくださって、それで改めて礼拝されたことが耳に入りました。

説教原稿を希望される方にはお送りしました。感想を伝えてくださった方もいます。

成功したライブ配信を家族でそろってご覧になり、一緒に讃美歌を歌ったとも聞きました。

そうしたことが何もできなくと

てはいないのですけれども、こういう危機の中に立つとき、やはり世界には教会が必要なのだと感じます。世界のどんなところの人々をも兄弟姉妹として結びつける神が、命の神が、愛の神が、私たちに必要だと実感させられます。あいにく今は教会の扉を大きく開くことのできる状況にないのですが、だからこそいつも以上に、キリストの体である私たちが、キリスト者らしく生きることが求められているのかもしれない。

(狩野進之佑)

も、それぞれの場で、共に天を仰ぎ、礼拝しているのでしょうか。復活の主が共にいてくださることを信じ、この危機から救い出してください、このことを、私たちは祈っています。「どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」(マタイ18・19)。復活の主の約束は実現します。万事を益としてくださる主の栄光のために、思い煩うことなく今日一日を喜び、祈り、感謝しましょう。(岸俊彦)

個人消息



皆様お元気で過ごしてはいかがでしょうか。新型コロナウイルスの影響が広がり、東京都では非常事態宣言が出されました。4月の長老会も、いつものように円卓になって話し合うのではなく、講義形式の教室のように岸牧師に向かって長老が座って行われました。すでに連絡があったように、教会総会の延期や、それまでの長老の任期の延長や各委員会の延長なども確認され

長老のファイル

ました。総会の時まで、しつかりとそれぞれの職責を果たしたいと思えます。

この非常事態宣言の出された状態を改めて考えるときに、今まで自由に集い、礼拝できていたことの幸運を改めて思い知らされました。と同時に、今までの歴史の中で、教会は幾度となく礼拝を守ることに非常な困難を伴うときがあったということを感じていなくありません。私は生まれていなかったため知る由もありませんが、戦前から続くこの経堂北教会でも、

掲示板



- 教会学校開始 5月10日(日) 午前9:00
- 聖霊降臨日 5月31日(日)
- 教会総会 5月31日(日) 礼拝後に延期
- 子どもの日合同礼拝
6月14日(日) 午前10:15

※日程は、新型コロナウイルス感染拡大によって変更もあります。改めて連絡します。

編集後記



▽経堂北教会と20年以上お付き合いのある堀献一さんにも原稿を書いていただきました。感謝申し上げます。(沢田)

「栄 光」2020年5月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@nifty.com
 HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

きつと戦時中には、神への信仰をそのままに表明し、正しく礼拝することが困難であった時代もあったことでしょう。先輩の教会員の方々は、その困難な時代にも神様の助けを受けて信仰の灯を絶やさずに今に繋いでくださいました。

今、私たちは一堂に会して礼拝を守ることはできず、それぞれの場にあつて共に祈りを合わせています。ライブ配信を通して共に礼拝を守る方、週報を見ながら聖書を読み進める方、一人ひとりができる形で神様を賛美礼拝している

ことでしょうか。各々がどんな状況にあつても神様を見上げ、今、できることをできる形でしていくことが大切なのだと思います。離れていても共に神様を見上げて賛美し、御言葉に生きていくことに変わりはありません。自由に行動し、集まって礼拝するということが今叶わなくとも、神様は私たち一人ひとりを見守ってくださいます。また、共に集い礼拝することのできる日を待ち望みつつ日々を信仰をもって生き生きと過ごしていきましょう。(大友太郎)